

第四節 魚雷ニ關スル操式教範等ノ變遷

第一項 發射機操式、發射操式

魚雷及發射機ノ取扱活用上ノ操作即チ操法又ハ操式ナルモノハ魚雷船着以前ヨリ不取敢机上ノ説明ニ依リ傳習シ或ハ洋書和譯ノモノヲ其ノ儘襲用シ來リシモノナリ試ミニ明治二十二年頃海軍兵學校編水雷教授書中ニ現ハルル操法ノ一般要領ヲ示セバ次ノ如シ

保式 水雷 演習

○十四吋「ロヤル、ラボラートリ」形水雷

(一) 車臺上發射演習(水上發射)

兵員配置—水雷具庫並ニ藥庫内定員—戰爭操練—負傷者交代法—演習後水雷採取法—水雷引揚法—水雷擔任士官訓令

(二) 水中管發射演習

内容概ネ前記ニ同シ

而シテ「水雷擔任士官訓令」ナルモノハ當時操法上重視セル事項ノ一端ヲ窺フベキヲ以テ參考ノ爲左記ス

水雷擔任士官訓令

擔任士官ハ前條掲ゲタル各自ノ職掌ヲ能ク盡サシメ且ツ之ヲ統督ス

凡ソ水雷發射ヲ過ツハ悉ク忘却ニ原因セザルハ無ク殊ニ列記セル件々ハ最大ナルモノナリ

水雷ニ屬スル部

一、尾舵ノ「コツキング」法正シカラザルコト

- 一、「カウンター」ノ腕ヲ其ノ適位ニ置カザルコト
 - 一、距離ノ調理ヲ誤ルコト
 - 一、油螺ヲ再置セザルコト
 - 一、演習時水雷洗置用ノ挺ヲ鉤シオクコト
 - 一、楔ヲ内ニ入レザルコト
 - 一、「ピストル」撃定ノ時ニ於テ楔ヲ其ノ後位ニ離サザルコト
 - 一、楔ヲ拔出スベキ左線ノ接合ヲ忘ルルコト
 - 一、「ピストル」ノ安全針ヲ拔ルニ當リ先ヅ其ノ移動自在ナルヲ確認セザルコト
 - 一、「ピストル」ノ安全針ヲ其儘ニ殘シオクコト
 - 一、「ピストル」ノ「フル、コック」前竝ニ楔ノ未ダ入ラザル前ニ於テ「ストライカー」ヲ挿入スルコト
 - 一、長螺針ヲ其ノ儘調理室ニ殘シテオクコト
 - 一、短螺釘ヲ調理室内ニ置カザルコト
 - 一、氣挺安全針ヲ其ノ儘殘シ置クコト
 - 一、氣挺一方ニ偏シテ「トリツパー」ニ觸レザルコト
- 車 臺 = 屬 ス ル 部
- 一、「トリツパー」其ノ位置ニ在ラザルコト
 - 一、驅逐管水雷ノ後端ト相對セザルコト
 - 一、驅逐管ノ調和瓣ヲ調理セザルコト
 - 一、驅逐棒ノ調軋ナルコト
 - 一、「スライディングバー」ノ「キー」一個若クハ二個共ニ挿入ヲ忘ルルコト

一、發射用意ノ辨テ命令ノトキニ開キ置カザルコト

一、發射用挺下安全針ヲ殘シ置クコト

即チ當時ノ操法ナルモノハ今日ノ夫レノ如ク一般の統制力アルモノニアラズ寧ロ操作取扱上ノ標準ヲ示セル程度ニ過ギズ

要スルニ當時ニ於テハ一定ノ操式ナルモノ無ク特ニ下士官、兵ノ勤務上不便少ナカラザリシヲ以テ明治二十四年四月水雷術練習艦迅鯨艦長森又七郎ノ命ニ依リ教官海軍大尉宮岡直記ノ編纂セル掌水雷必携中ニ魚形水雷操法ナル章ヲ設ケ普ク實施艦團部隊ニ配布シ操法ノ基礎タラシムルニ至レリ爾後ハ概ネ各基本部ニ於テ裝備發射機及供用魚雷ニ適スル如ク操法ニ關スル細部ヲ變改規定シ之ヲ實施セシガ明治三十四年十月ニ至リ水雷術練習所ヨリ發射機操法ヲ提出スルニ及ビ不取敢本操法ヲ一般ニ配付シ操法ノ參考タラシムルニ至レリ其ノ内容左ノ如シ

明治三十四年水雷術練習所提出(配付)發射機操法目次

一、朱式旋回發射管操法 二、加式發射管操法

三、保式發射管操法 四、發射框操法

四十一年六月吳鎮守府司令長官提出意見中左記事項アリ

今尙發射機操式ノ制定無キハ本發射ノ實施ヲシテ區々ニ陷ラシムルノ止ムナキニ至レリ云々

斯クテ四十一年十一月二十日內令第二百九號ニ依リ發射機操式草案ノ制定發布ヲ見ルニ至リシハ此種操式ノ正式制定ノ嚆矢ナリ

即チ三十四年敷設水雷操式ノ制定ニ止シ甚シク遅延セルヲ見ルベシ

本發射機操式草案ハ海軍水雷學校ニ於テ海軍少佐桑島省三以下専ラ起案ノ衝ニ當リタルモノニシテ三十七、八年戰役ニ於ケル魚雷戰ノ成果ヲ一層向上セシムベキ手段ノ一ハ魚雷及發射機ノ操法ノ改善振作ニ在リト爲シ三十九年秋季ヨリ起案セルモノニシテ在來使用ノ操式ノ缺陷ハ魚雷ノ準備調整ニ關スルモノモ敵前ニ於ケル戰鬪ニ關スル操作モ一併ニ掲記セラレアリシガ爲操式ノ要求スル所謂確實迅速竝ニ操作ノ整然タル秩序ヲ缺キシニ在リシヲ以テ之等操作ヲ戰鬪ノ令ニテ實施スベキ發射操法ト其ノ事前ニ整備スベキ準備裝填操法トニ劃然區分シ關係諸員ノ責任ヲ明確ナラシメ今日ノ操式ノ基礎ヲ爲シタルモノナリ内容左ノ如シ

一、發射機操式草案目次摘要

總則 要旨―發射機ノ分類及呼稱―配員及其ノ任務―號令―教練―雜件

第一章 驅逐艦水雷艇發射管操法

第二章 軍艦水上發射管操法

第三章 軍艦水中發射管操法

第四章 艦載水雷艇落射機操法

第五章 敷設艇發射機操法

附 錄

教練ニ於ケル發射方法

發射場―標的―發射ニ要スル船艇―發時射ノ信號―水雷ノ準備―水雷採收法―水雷採收後ノ處置

二、總則中ノ「要旨」摘要

- (一) 本操式ハ魚形水雷竝ニ發射機ノ操作ニ關シ一般ニ遵守スベキ法則ヲ規定ス
- (二) 本操式ノ目的ハ戰闘ニ當リ魚形水雷ノ能力ヲ完全ニ發揚シ其ノ効果ヲ收ムルニアリ 故ニ各員ハ其ノ職責ニ應ジテ本操式ニ通曉シ之ガ活用ノ妙ニ達センコトヲ要ス
- (三) 本操式ノ實行ヲシテ最モ有効ナラシメムニハ魚形水雷取扱教範、魚雷水雷發射教範、驅逐隊、艇隊教範等ト相俟ツテ各員ノ智識ヲ發達セシメザルベカラズ故ニ各級指揮官ハ部下ノ能力ト熟練程度ヲ考察シ適切ニ之等ノ教範ト併セ教授スルヲ要ス
- 三、「配員及其ノ任務」摘要

- (一) 水雷竝ニ發射機ヲ操作スル兵員ヲ發射機員ト稱シ又其ノ分類ニヨリ之ヲ發射管員、落射機員及發射艇員ト稱ス
- (二) 發射機員中機敏ニシテ膽力アリ水雷ノ調製及取扱ニ熟達シ且照準ニ巧ミナルモノ一名ヲ選ビ照準手トシ魚形水雷主要部ノ調製及照準發射ヲ掌ラシム但シ司令塔ヨリ爲ス照準發射ハ水雷長又ハ艇長ノ命ジタル將校之ニ當リ又艇首發射管（落射機及發射艇）ニ在リテハ其ノ艇長（艇指揮）躬ラ照準ヲ行フモノトス
- (三) 發射機員中伎倆照準手ニ次グモノヲ豫備照準手トシ照準手ニ準ジ訓練セシム
- (四) 照準手以外ノ發射機員ニハ首席者ヲ一番トシ順次ニ番號ヲ附與ス
- (五) 發射機員中首席者ヲ發射機長ト稱ス發射機長ハ發射機員ヲ統轄シ其ノ擔當スル水雷及發射機ヲ常ニ完備ノ狀態ニ保持スルヲ要ス
- 爾後本操式試用ノ結果ニ鑑ミ大正二年九月内令第百三十五號ニ依リ發射機操式ヲ制定シ前記明治四十年制定發射機操式草案ヲ廢セリ理由左ノ如シ

一、魚雷ノ進歩ト發射機ノ改廢ニ伴ヒ現行ノ發射機操式草案ハ適用シ難キ點ヲ生ジ改正ノ必要ヲ認メタルニヨル而シテ操式草案ヲ操式ト爲シタルハ兩者効力ニ於テ差違無キニ兵器ノ進歩ニ伴ヒ時々改正ヲ要スルヲ以テ草案トシテ發布スルトキハ操式トナス

時機無ク寧ロ始メヨリ操式トシテ發布スルヲ可ナリト認メタルニ依ル

二、現行操式草案ニ比シ異レル主ナル諸點左ノ如シ

- (一) 驅逐艦聯裝發射管操法、軍艦々尾水上發射管操法、軍艦々尾水中發射管操法ノ三ヲ加ヘ敷設艇發射管操法ヲ除ク
- (二) 水雷ナル用語ヲ魚雷ニ改ム
- (三) 各種操法ハ總テ加熱裝置附魚雷ヲ發射スルモノニ改ム
- (四) 從來ハ舷側水中發射管發射空氣ハ「前扉開ケ」ノ際裝氣セシモ前扉ハ成ルベク遅ク開カシムル必要アルト同時ニ軍艦水上發射管ニ在リテハ戰鬪後發射空氣用意ノ令アルヲ以テ一定ナラシムル爲「發射空氣(藥莢)用意」ノ令ヲ加ヘタリ
- (五) 獨立發射ニ於テ成ルベク發射時機ヲ艦橋ニテ掌握スル爲「發射始メ」ノ令ヲ設ク
- (六) 附録ノ部(教練發射方法)ニ於テ發射規則等ト重複スルモノヲ除ケリ

大正四年三月内令第三十三號ニ依リ發射機操式ヲ改正セリ

本改正ノ要點及理由等次ノ如シ

- 一、軍艦舷側二十一時水中發射管操法ヲ制定セリ
 - 二、照準手(照)ノ名稱ヲ廢シ新ニ射手(射)調整手(調)ノ職ヲ設ケタルコト
- 但シ(射)ハ發射機員外トシ司令塔艦橋ノ方位盤ニ就カシムルモノトシ方位盤ニハ將校一、下士一ヲ配スルヲ立前トス 故ニ時機ニ依リ必要ト認ムレバ將校ヲ以テ照準發射ヲ掌ラシムルコトヲ得ルモノトス又直上方位盤ヲ有スル發射管附屬ノ(射)ハ(調)ヲシテ兼務セシムルヲ例トス

理由 照準手ナル名稱ハ其ノ實ヲ示サザルノミナラズ軍艦ノ如ク方位盤ト發射管ト離隔シタルモノニアリテハ照準發射ノ職務ト魚雷發射機ヲ操作スル職務トハ自ラ區別セザルベカラズ且方位盤ヲ取扱フニハ方位盤修正者ト照準者トノ二名ヲ要ス之レ方位盤ニハ將校ノ外一名ノ(射)ヲ要スル所以ニシテ軍艦司令塔又ハ艦橋、驅逐艦々橋ノ方位盤ニハ特ニ(射)ヲ配置スルヲ要ス

直上方位艦ヲ有スル發射管附屬ノ射ハ特ニ發射機員外ノ一名ヲ配スルニ及バザルヲ以テ(調)チシテ兼務セシムルヲ例トセリ
 三、調定諸元ノ制定其ノ他重要ナル作業ニシテ(調)カ指揮ニ報告スベキ事項又ハ表示スベキ要具ハ操法上差支ナキ限り該作業ノ終了後直ニ行ハシムルコト

理由 右作業ノ報告、要具ノ表示ヲ從來ノ如ク最後ニ一括シテ行フコトハ形式ニ流レ易ク確實ヲ欠クノ嫌アリ故ニ報告表示ハ一作業ノ終ル毎ニ行ハシメ出來得レバ一報告一表示ヲ終ルニアラザレバ次回ノ號令ヲ下ス能ハザラシムル様ニスルヲ可トシ成ルベク其ノ主義ニ依レリ

四、取扱上ノ注意事項ノ如キハ必要缺クベカラザルモノノ外之ヲ教範ニ壞リ操式ヨリ削除スルコト

理由 現操式ニハ取扱上ノ注意事項ヲ記載セルモノ多ク操式トシテ其ノ體ヲ得ザルヲ以テ之ヲ削リ魚雷及發射機教範ニ譲ルヲ妥當ト認メタリ

五、各種發射機ノ發射ニ於テ「發射始メ」及「用意」ノ令ヲ用ヒシメタルコト

理由 從來「發射始メ」ハ驅逐艦水雷艇ノ發射管ニ於テ使用シ「用意」ハ何レノ發射管ニモ使用セザリシト雖「發射始メ」ノ令ハ獨リ驅逐艦ニ於テ必要ナルノミナラズ軍艦ニ於テモ(射)ニ對シ照準來ヲバ發射シ差支ナキコトヲ令スル場合ニ缺クベカラザルヲ以テ此令ヲ用フルコトトセリ

「用意」ハ射ガ發射管側其ノ他ニ發射ノ切迫セルヲ警告シ注意ヲ喚起スルニ止ルモノナルモ從來ノ實體上甚ダ必要ト認メタルニ依リ總テ用キシムルコトトセリ

六、「發射待テ」ヲ加ヘタルコト

理由 今將ニ發射セントシツツアルトキ特ニ自艦ヲ運用スル必要アル場合又ハ目標ヲ誤リタル場合等ノ爲照準來ルモ發射セシメザラントスルトキハ一時發射ヲ控ヘシムルヲ要スル場合アリ此場合ハ其ノ姿勢ノ儘再ビ「發射始メ」ノ令アル迄ハ決シテ發射セザル様規定セリ

七、水中發射管操法ニハ斜進角度ノ調定ヲ加ヘタルコト

理由 水中發射管ニ於テ斜進器ノ必要ナルコトハ喋々スルヲ要セザルノミナラズ斜進發射ノ容易ナルコトハ實驗上明カナリ斜進器ガ古ク兵器トシテ採用サレアル以上其ノ使用法ヲ操式ニ規定シオダハ必要且妥當ナルコトト認メタリ

八、落射機發射ハ兩舷魚雷ノ一齊發射ヲ原則トシタルコト

理由 落射機ガ十八吋ニ改良セラレタル以來艦載水雷艇ノ發射ハ艇ノ傾斜ヲ起スコト甚ダシクシテ一舷宛ノ發射ヲ行フコト困難トナレリ事實ニ於テモ敵ニ對シ獨立發射ヲ行フハ實際行ヒ難キコトニ屬ス特ニ波浪アル海面ニ於テ然リ

九、操式附録「教練ニ於ケル發射方法」ヲ削除セリ

理由 教練ニ於ケル發射方法ハ發射教範ニ讓ルヲ妥當ト認メタリ

大正五年内令第一百十六號ニ依リ發射機操式中軍艦舷側水中發射管操法ニ關シ左記要領ノ改正ヲ行フ

(例) 軍艦舷側則二十一吋水中發射管操法(裝填發射操法)

發射後或ハ内筒試シ方ノ處置トシテ

〔調〕ハ「前扉閉メ」ト令シ指壓圖紙ヲ取外シ(指揮ニ渡ス)ハ手働發射針ヲ抜き起倒片ヲ起シ安全針ヲ挿入ス(電路裝置ニ在リテハ)ハ安全針ヲ挿入シタル後維持針裝置用氣弁ヲ閉サス」トアリシテ

〔一〕ハ手働發射針ヲ抜き起倒片ヲ起シ安全針ヲ挿入ス(電動裝置ニ在リテハ)ハ安全針ヲ挿入シタル後維持針裝置用氣弁ヲ閉サス)〔調〕ハ(一)ノ手働發射針ヲ抜き起倒片ヲ起シ安全針ヲ挿入シタルテ見テ「前扉閉メ」ト令シ指壓圖紙ヲ取外シ(指揮ニ渡ス)

ニ改ム

本改定ノ理由左ノ如シ

舷側水中發射管ニ於テ發射若ハ内筒試方ノ際發射氣蓄器用寒氣弁ノ閉鎖不充充分ニシテ之ニ漏氣アルニ氣附カズ内筒ヲ射出セバ内筒退却後裝氣栓内ノ空氣ハ同弁ヲ經テ發射氣蓄器内ニ漏入シ同器内ノ氣壓ヲ高ムルコトアリ此時ニ當リ起倒片倒レタル儘寒氣弁閉鎖セラルルカ或ハ其ノ漏氣量減少スルコトアラバ發射弁ノ背壓低減シテ同弁ハ外筒内ニ開口シ先キニ高メラレタル氣蓄器内空

氣ノ壓力ニ依リ再ビ内筒ヲ前進セシム而シテ此ノ時機ニ於テ前扉半開ノ位置ニ在ランカ前筒ノ前部ハ前扉ヲ衝撃シ同扉ヲ毀損セシムベキニ依リ前記ノ如ク操式ヲ訂正シ以テ前扉閉鎖ノ時機ヲ明示スルヲ要ス

因ニ此ノ種事故ハ同年三月十九日軍艦扶桑六番發射管内筒試シ方實施中ニ發生シ爲ニ前扉ヲ毀損シ全閉ヲ不可能ナラシメ行動上ニ支障ヲ生セシメタルモノニシテ其ノ詳細ハ第四編第九章ニ詳記セリ

大正七年四月内令第二百二十二號ニ依リ新ニ魚雷發射操式ヲ制定發布セリ本操式制定ノ理由及内容ノ一般等左ノ如シ

一、本操式ノ目的

本操式ノ目的ハ發射指揮系統ニ屬スル諸機關ノ爲スベキ事項ヲ規定シテ發射指揮法ノ原則ヲ明カニスルト同時ニ定員ノ配當、通信裝置、發射指揮要具等ノ裝備ヲ完成スベキ基礎ヲ確立スルニ在リ

從來單一發射管又ハ單一魚雷等ノ操作ヲ規定セル教範草式ハ已ニ制定セラレアルモ未ダ一艦一艇ヲ一團トスル綜合兵力ノ活用ニ資スベキ發射指揮上ノ指針トスベキ範式無ク動モスレバ不統一ノ弊ニ陥リ發射術ノ改良進歩ヲ遲滯セシムル傾向無シトセズ茲ニ本操式ヲ制定シ其ノ歸趨ヲ明カニスルハ刻下ノ急務ナリト認ム

二、本操式ノ内容形式

(一) 本操式ハ軍艦及驅逐艦ノ戦闘ニ當リ發射指揮系統ニ屬スルモノ連繫動作ヲ骨子トシテ記述ス

(二) 發射指揮ニ干與スベキ系統ガ如何ニ編成セララルヤ又其ノ指揮權ガ如何ニ繼承セララルヤヲ初ニ規定シ操作ノ叙述ハ總テ魚雷戰ノ經過ニ從ヘリ

(三) 本操式ハ各種艦艇ニ適用セシメ得ルコトニ努メ軍艦、驅逐艦ノ部ニ大別シテ閱讀ノ便ヲ圖レリ

三、内容逐條(大略主要點)説明

(一) 總則ニ於テ本操式規定ノ範圍ヲ明カニシ且一般守則ヲ指示ス

軍 艦

(一) 軍艦ノ發射指揮系統ヲ定ム

本系統中ニ發射分擔指揮官ヲ置キタルハ當初ヨリ發射指揮官ヨリ獨立シテ一部ノ發射ヲ分擔セシムルノ主旨ニアラズシテ通信發射裝置ノ故障又ハ兩舷戰鬪ノ場合ニ際シ一部又ハ副戰側ノ魚雷戰ヲ指揮セシムル必要アルノミナラズ好機ニ際シ連續獨立發射ヲ行ヒ又ハ後部諸砲臺ヲ統一指揮スルノ必要アルヲ以テ發射指揮官ト隔離セル後部司令塔ニ權威アル幹部ヲ配置スルヲ有利ナリト認メシニ依ル

(二) 軍艦ノ發射指揮ニ關スル分擔標準ヲ定ム

分擔標準ノ要旨ハ發射指揮官自ラ全水雷砲臺ノ指揮ヲ掌握シ發射分擔指揮官ハ特令アル場合ノミ指定砲臺ノ指揮ニ任ジ一齊發射ヲ行フヲ原則トシ獨立發射ノ場合ハ前部及後部(艦砲臺ヲ含ム)砲臺別ニ兩指揮官之ヲ指揮シ連續迅速ナル發射ヲ行ヒ得ル如クス

(三) 幹部員及幹部附ノ編制ヲ明カニス

(イ) 發射指揮官ニハ發射計畫及實施ノ爲其ノ補助將校(中少尉一)及發射指揮要員ヲ取扱フベキ下士卒若干ノ補助員ヲ要シ又全砲臺又ハ一部砲臺ノ統一發射ヲ施行スル場合ニ於ケル統一發射用方位盤ニ配スベキ射手一名ヲ要ス

(ロ) 發射分擔指揮官ニ配屬スベキ幹部附ハ發射分擔指揮官ノ分擔標準前述ノ如クナルヲ以テ測距員ノ外水雷砲臺員ヲ以テ兼務セシムルヲ以テ十分ナリトス

(四) 水雷砲臺長ニ直屬スル砲臺員ノ編制ヲ明カニス

本編制ニ於テ射手ヲ二名ト定メタルハ一司令塔指揮所ニ射手二名ヲ配置スルヲ原則トシ砲臺所屬發射管數ノ多少ニ關セズ一舷一個ノ方位盤ヲ裝備シ指揮上ノ便ヲ計ル必要アリト認メタルニ依ル

註 目下射手ハ照準發射ヲ主任務トスルモ現時ノ調整手ノ魚雷及縱舵機調整ノ任務ヲ分割シ縱舵機調整ヲ射手ニ行ハシムル如クシ一射手ヲシテ數個ノ發射管ニ屬スル縱舵機調整ヲ受持タシムルヲ可ナリト認メ近ク發射機ノ操式ヲ改定セム

トス

(四) 乗務配置及缺員補充順序ヲ定ム

(四) 發射指揮官及發射分擔指揮官ノ占位標準及任務ヲ明カニシ發射指揮官ハ全砲臺ノ發射指揮ヲ掌リ發射分擔指揮官ハ特令ニ依リ發射指揮官監督ノ下ニ一部砲臺ノ指揮ヲ擔當スルヲ原則トスルノ意ヲ明カニス

(七) 敵針敵速ヲ艦長ノ告知事項ニ定ム

敵針敵速ノ測定ハ現時發射專用測距儀ヲ備ヘザルガ爲一般ニ航海又ハ射擊用測距儀及人員ヲ以テ之ヲ行フヲ例トスルヲ以テ艦長ノ告知事項トスルヲ穩當ト認メタルノミナラズ尙將來ハ發射指揮及戰術上ノ要求ヨリ「スベリー」氏「バツトル」ト「レーサー」ノ如キ完全ナル測敵機關ヲ必要トスルヲ以テ之ガ裝備ノ曉ニ於テモ如斯敵針敵速ヲ艦長ノ告知事項ト爲シ置クヲ可ナリト認メタルニ依ル

(六) 發射指揮官ノ號令スベキ事項ヲ掲シ尙狀況ニ依リ其ノ一部ヲ發射分擔指揮官又ハ水雷砲臺長ヲシテ決定指示セシムルコトヲ得ルコトトシ實施上ノ便ニ應ジ得ル如クス

(六) 射法ノ種類ヲ一齊及獨立ノ二トシ個々ノ發射機又ハ發射機群ノ發射ハ勿論亦個々ノ砲臺又ハ砲臺群ヲモ任意ニ管掌シ得ル如ク定ム

(六) 常ニ連續發射ヲ爲シ得ル如ク魚雷ノ準備ヲ爲シ置クヲ必要ト認メ發射後令ナクシテ次發魚雷ヲ裝填シ發射準備ヲ整フベキコトヲ明カニス

(二) 事故ニ際シ指揮艦本ノ順序ヲ明カニス

驅逐艦

(一) 驅逐艦ノ發射指揮系統ヲ定ム

本指揮系統ニ於テ司令ヲ除外セルハ本操式ノ性質上眞個ノ戰闘單位タル一艦一艇ニ於ケル發射指揮系統等ヲ叙述シ驅逐艦ニ對スル司令ノ指揮權ニ關スル事項ハ軍艦ノ戰隊ニ於ケルト同様水雷戰隊司令官及驅逐隊司令ノ定メタル水雷戰々策又ハ

規定等ニ定ムベキモノト認メタルニ依ル

(二) 幹部附及水雷砲警員ノ編制ヲ定ム

本編制中發射幹部附射手ヲ置キタルハ主トシテ盤橋方位盤ニ依ル統一發射ニ之ガ必要ヲ認メタルニ依ル

(三) 乗務配置及缺員補充順序ヲ定ム

(四) 特ニ「魚雷戰」ノ字句ヲ用キタルハ驅逐艦ニ於テハ「水雷戰」ナル用語ハ少クモ二種以上ニ分類シ得ルニ依リ之ヲ明カナラシムルヲ可ナリト認メシニ依ル

(五) 驅逐艦長ノ發令事項ヲ定メ軍艦ト同一ナラシメタルハ主トシテ同一理由ニ依ル

教 練

(一) 教練ノ目的ハ戰闘ニ際シ十全ナル實効ヲ期スルニアリ故ニ教練ニ關スル一舉一動ハ總テ實戰的ナルヲ旨トシ聊カタリトモ形式皮相のナルヲ許サズ此意義ヲ以テ叙述テ一貫セシメタリ

越ヘテ大正九年三月ニ至リ内令第五十三號ニ依リ魚雷發射操式草案ヲ定メ尙當分ノ内大正五年内令第三十三號發射機操式及大正七年内令第二百二十二號魚雷發射操式ノ使用ヲ止メ本操式草案ヲ試用セシムルコトトセリ

本草案ハ豫メ實施部隊ニ之ヲ内示試行セシメ各部ノ意見ヲ斟酌シ一ト先ヅ草案トシテ發布セルモノニシテ内容目次及改正要點左ノ如シ

第一、魚雷發射操式草案目次

綱 領

第一章 總 則

第二章 基本發射操式

第一節 通 則

第二節 驅逐艦水雷艇單裝旋回發射管操法

第三節 驅逐艦二聯裝旋回發射管操法

第四節 驅逐艦三聯裝旋回發射管操法

第五節 軍艦上甲板四十五糎水上旋回發射管操法

第六節 軍艦中甲板舷側四十五糎水上旋回發射管操法

第七節 軍艦中甲板艦尾四十五糎固定發射管操法

第八節 軍艦舷側四十五糎水中發射管操法

第九節 軍艦々尾四十五糎水中發射管操法

第十節 軍艦五十三糎水中發射管操法

第十一節 艦載水雷艇落射機操法

第三章 戰鬪發射操式

第一節 通 則

第二節 戰 鬪

第四章 教 練

第二、改正要點

一、現行發射機操式及魚雷發射機操式ヲ一纏メトナシ魚雷發射操式トナシタルコト

兩者ノ關係ヲ一層密接メラシメ本末系統ヲ明カニシ傍ラ操式編成上記註事項ノ重複ヲ避ケシム

二、艦内編制令ニ基キ其ノ規定ニ適合スル如ク改廢セルコト

三、操式ニハ發射ニ際シ行フベキ作業即戰闘ノ令後行フベキ作業ノミテ規定スルコトニ改メタルコト

從來操式中ニ規定セラレタル準備操法ノ如キハ操式ノ主要求タル「作業ノ迅速」ト相容レザルモノ多キヲ以テ發射教範ニ讓ルヲ適當ト認メシニヨル

四、發射機指揮ヲ廢シ發射機長ノ職務ヲ規定シタルコト

現行操法ハ發射機指揮ヲ置キ水雷砲臺附將校又ハ特務士官、准士官ヲシテ兼務セシメタルモニ發射機以上ノ兼務トナリ名實相副ハザルコト多キノミナラズ發射指揮官トノ間ニ此階梯ヲ設クルハ却テ操法ノ實施ヲ澁滞セシムルニ至ルヲ以テ之ヲ廢シ他方操法上發射機長ノ職務ヲ規定シテ從來ノ發射機指揮ノ職務ノ一部ヲ掌ラシメ將校又ハ特務士官准士官ヲ以テスル一般ノ指揮監督ハ從來ノ通砲臺附トシテ之ヲ行ハシムルヲ適當ナリト認メシニ依ル

五、戰闘側ヲ指示スルニ「右(左)兩舷」魚雷戰」ノ令ヲ用ヒタルコト
砲戰ト區別スルノ必要アルニ依ル

六、號令報告呼稱竝ニ其ノ用詞ヲ簡約ナラシメタルコト

七、驅逐艦及軍艦三聯裝發射管操法ヲ追加セルコト

八、右諸號ノ外從來不便ヲ感セシ部分ヲ改正ス

大正十二年二月十二日內令第三十一號ニ依リ魚雷發射操式ヲ新制發布シ從來ノ大正五年內令第三十三號發射機操式、大正七年內令第二百二十二號魚雷發射操式及大正九年內令第五十三號魚雷發射操式草案ハ之ヲ廢止シ此種諸操式ヲ更生統一セリ提案趣旨左ノ如シ

大正五年發射機操式制定セラレ主トシテ單一發射機ノ操作ニ關スル事項ヲ規定シ次デ大正七年ニ至リ別ニ魚雷發射機制定セラレ主トシテ發射機ノ統一指揮ニ關スルコトヲ規定セリ然ルニ兩者ヲ別個ニスルトキハ不便且重複ヲ免カレザルヲ以テ大正九年兩者ヲ

綜合整理シテ魚雷發射操式草案ノ發布ヲ見ルニ至レリ爾來之ヲ試行シ其ノ間發射機操式ノ使用ヲ中止シテ今日ニ及ベリ魚雷操式草案試行ノ結果ハ大体ニ於テ適當ナリト認メ得タルヲ以テ更ニ必要ナル小改訂ヲ加ヘテ正式ノ魚雷發射操式トシ同時ニ從來使用中止中ノ發射機操式竝ニ試行中ノ魚雷發射操式草案ヲ廢止スルコトトス

本操式改正要點ハ既記セル草案ノ部ニモ其一斑ヲ示セルモ爾後更ニ訂正セル部分等ヲモ併セテ具體的ニ指示セバ左ノ如シ

魚雷發射操式改正要點說明

一、基本發射操式ノ構成ヲ軍艦、驅逐艦ニ依リ區別セルコト

操式草案ニ於テハ基本發射操式ハ軍艦驅逐艦共先ハ「戰鬪側」ヲ指示シ發射管ヲ旋回シタル後「發射用意」ヲ令シ戰鬪發射操式ニ於テ狀況ニ依リ「發射用意」ノ後「戰鬪側」ヲ令シ得ルコトニ規定シアリタリ然レドモ驅逐艦ニ在リテハ發射直前迄戰鬪側ヲ決定シ難キ場合屢々是レ有ルノミナラズ從來ノ操式ニ依リ基本操法ヲ訓練シ置クモ戰鬪ニ當リ號令ノ順序ヲ前後轉倒スルガ如キ場合ニ於テハ自ラ別個ノ操法トナリ訓練ノ効果ヲ減少スルコト大ナルヲ以テ寧ロ基本發射操式ヲ改メ戰鬪側決定前發射用意ヲ完了シ以テ狀況ノ變化ニ即應シ得ベカラシムルト同時ニ基本操法ハ直ニ戰鬪操法ニ適用シ得ルモノナラシムルヲ適用ト認メ之ヲ改メタリ

二、分擔發射ニ關スル諸項ヲ削除セルコト

操式草案ニテハ發射分擔幹部員ハ艦尾ニ發射管ヲ有スル軍艦ニ限り必要ニ應ジ之ヲ編成スル如ク規定シアリシモ現在艦尾發射機ヲ有スルハ小數ノ輕巡洋艦ニシテ之等ハ概ネ發射分擔幹部員ヲ編成スルニ足ルベキ人員ヲ有セズ發射機ノ數亦僅少ニシテ加フルニ斜進發射ニ依リ舷側發射機ト共ニ統一指揮スルコトヲ得ベク一般ニ分擔發射ヲ行フ必要ヲ認メザルヲ以テ原則トシテ發射指揮官ハ一粒ノ發射ヲ統一指揮シ分擔發射ヲ行ハザルコトトシ發射分擔幹部員ノ編成竝ニ發射分擔指揮官ノ任務所掌等ニ關スル事項ハ之ヲ操式ヨリ削除スルコトトセリ

三、爆發尖ノ帽片ヲ除去セザルコト

從來爆發尖ノ帽片ヲ除去スル如ク規定シアリシモ四四式以後ノモノニアリテハ構造上帽片ヲ除去スルコト困難ナリ且之ヲ除去

セル場合ニ於テハ翼螺脫落セズシテ衝鋒ノ後退運動ヲ妨グルヤノ疑アリ帽片ヲ除去セザルモ何等ノ支障ヲ認メザルガ故ナリ
 四、發射管員中傳令ニ從事スベキモノヲ定メタルコト

操式草案ニ於テハ管側傳令ニ就キ何等規定スル所無カリシモ本操式ニ於テハ管員中ノ一名ヲ傳令ニ充ツルコトトセリ
 五、驅逐艦ニ第一、第二射法等ノ號令ヲ設ケタルコト

六、魚雷發射機準備法ヲ定メ操式附録トセルコト

操式草案ニ於テハ發射機魚雷ノ調整試驗鑿査等ニ關スル事項ハ概ネ發射前ノ準備作業ニシテ操式ノ要求スル「作業ノ迅速」ト相容レザルモノ多キヲ以テ操式トシテ規定スルヲ不適當ト認メ之ヲ魚雷教範ニ讓ル主義ニ依リ操式ヨリ之ヲ除外セリ

(編者曰 是レ操法ニ關スル革命的變改ニシテ舊套ヲ一擲セルモノナリ)

今回制定セル魚雷發射機準備法ハ操式トシテ規定セズ準備作業ニ於ケル各員ノ準據スベキ所ヲ指示セムガ爲單ニ作業ノ順序並ニ其ノ分擔ヲ定メタリ而シテ其ノ内容上ヨリ之ヲ附録トシテ操式ニ附加スルヲ便宜ト認メ末尾ニ添附スルコトトセリ

七、潜水艦發射管ノ操法ヲ定メタリ

左ニ本操式内容ノ一端ヲ掲記シ參考ニ供ス

一、目 次

綱領、第一章 總則、第二章 基本發射操式、第三章 戰團發射操式、第四章 教練、附録 各種魚雷發射管準備法

二、綱領摘要(目次中ノ綱領ヲ云フ)

一、魚雷戰ノ要訣ハ好機ニ乘シ迅速正確ナル發射ヲ遂行スルニ在リ而シテ正確迅速ナル發射機魚雷ノ操作ハ適切ナル發射ノ指揮及發射諸機關ノ協同動作ト相俟ツテ克ク其ノ目的ヲ達成スルモノナリ

二、戰團ニ於テハ百事簡單ニシテ精練ナルモノ能ク成功ヲ期シ得ベシ本操式ハ此趣旨ニ從ヒ發射機魚雷ノ操作、發射ノ指揮、發射諸機關ノ協同動作ニ關シ一般ニ則ルベキ方式ヲ規定ス故ニ此ノ方式ヲ嚴守シテ之ニ習熟シ以テ之ヲ實地ニ應用スルヲ要ス
 三、慘烈ナル戰況ノ下ニ在リテ協同一致克ク其ノ任務ヲ遂行スルニハ實ニ鞏固ナル軍人精神ト嚴肅ナル軍紀トヲ要ス而シテ嚴肅

ナル軍紀ハ號令節ニ合シ操作法ニ適フニ依リテ生ズルモノナリ

三、第一章總則摘要

- 一、本操式ハ之ヲ基本發射操式戰闘發射操式ニ分チ基本發射操式ニ於テハ發射機魚雷ノ操作ニ關シ戰闘發射操式ニ於テハ發射指揮、發射諸機關ノ協同動作ニ關シ一般ニ則ルベキ方式ヲ規定ス
- 二、發射幹部員、水雷砲臺員ノ編制及其ノ所掌等ハ本操式ニ規定スルモノノ外總テ艦内編制令ノ規定ニ依ル
- 三、發射機員、發射幹部員及之等ノ所掌等

大正十三年一月内令第二十五號ニ依リ基本發射操式中一部ヲ改正ス左ノ如シ

一、潜水艦ニ在リテハ其ノ艦定員ノ範圍内ニ於テ發射機長ヲ除キ聯管中ノ各管三名ヲ超ヘザル限リ適宜發射機員ヲ增加スルコトヲ得シム

(理由) 潜水艦ニ在リテモ發射機員ハ一管三名ヲ適等ト認ムルモ現在ハ配員其ノ他ノ都合ニ依リ一管約二名ニ止メアリ然レドモ定員ノ都合上配員シ得ル艦ニ在リテハ三名迄増加スルヲ適當ト認ムルニ依ル

二、八年式發射管操作ニ於テ發動用角形臂挺ヲ衛鐵ニ掛クルニ先チ要スレバ發射空氣ヲ排除シ得シム

(理由) 八年式發射管ニ在リテハ發射弁等不良ノ爲不發ヲ生ジ發射空氣殘留セル時ノ如キハ直ニ轉把ヲ以テ發動用角形臂挺ヲ衛鐵ニ掛クルハ機構上不可能ニシテ先ヅ發射空氣ヲ全部排除スルノ要アルニ依ル

三、軍艦五十三型水中發射管(水壓式)ニ在リテハ次發魚雷裝填ノ際前扉閉鎖後全部排水スルヲ待タズ適宜側扉ヲ開放スルコトヲ得ルコトス、之レ實驗上其ノ必要ヲ認ムルノミナラズ機構ノ安全等何等差支無キガ故ナリ

本操式ハ爾後大正十四年内令第八十一號ニ依ル小改正ヲ經テ昭和三年ニ及ベリ

魚雷發射操式中大正十五年末現行發射幹部員、發射機員、編制ヲ示セバ左ノ如シ



一、發射幹部員編制

各部ノ人員ハ發射指揮機關ノ設置ニ應ジ適宜之ヲ増減スルコトヲ得	傳 令 員					指 揮 要 具			幹 部 射 手	補 助 員	發 射 指 揮 官	配 置	員 數	備 考	
	測 距 傳 令	測 敵 傳 令	下 部 司 令 塔	司 令 塔	發 射 指 揮 所	艦 長 所 在	測 距 儀	測 敵 盤							發 射 指 揮 盤
	一	一	二—三	三	三	一	二—三	二	一—四	若干					
	測距儀側ニ在リテ傳令ニ従事ス	測敵盤側ニ在リテ傳令ニ従事ス							一部ハ水雷砲臺射手兼務						



二、發射機員ノ編成

係式四十五糎水上旋回發射管	
驅逐艦四十五糎二聯裝發射管	七
驅逐艦四十五糎三聯裝發射管	〇
軍艦中甲板四十五糎水上旋回發射管	六
軍艦五十三糎二聯裝發射管	七
軍艦五十三糎三聯裝發射管	一三
軍艦五十五糎舷側水上發射管	八
軍艦五十三糎舷側水中發射管	八
八年式二聯裝發射管	九
軍艦一二式舷側水上發射管	七
一二式三聯裝發射管	一三
艦載水雷艇落射機	七
潜水艦五十三糎六聯裝艦首固定發射管	一
潜水艦四十五糎四聯裝艦首固定發射管	二
潜水艦五十三糎四聯裝艦首固定發射管	八
同 二聯裝艦上旋回發射管	四
同 單裝艦上固定發射管	三
同 單裝舷側固定發射管	三
同 二聯裝艦首固定發射管	四
同 三聯裝艦首固定發射管	五
同 二聯裝艦尾固定發射管	四

然ルニ昭和三年艦内編制令一部ノ改正ト共ニ魚雷戰發射指揮ヲ一層明確直截ナラシムルノ必要ヲ認メ

四 五 四 三 三 四 八 一 七 一 七 九 八 八 一 七 六 〇 七 三

一、潜水艦單裝舷側固定發射管ニ於テ二個ノ單裝發射管ガ相近接シテ裝備セラルル艦ニ在リテハ二管ニ對シ發射機員五ヲ配シ二管ヲ一聯管ノ如ク取扱フコトヲ得

二、發射機員（潜水艦四聯ニアリテハ其ノ二管毎ニ同六聯ニアリテハ其ノ三管毎ニ）中首席者ヲ發射機長ト稱シ發射機長ハ操式ノ實施ニ關シ直接發射機員ヲ監督シ又規定ニ從ヒ之ヲ指揮スルモノトス、發射機長以外ノ發射機員ニハ一番ヨリ順次番號ヲ附ス、但シ聯裝發射管ニ在リテハ各管毎ニ番號ヲ附ス又潜水艦ニ在リテハ其艦定員ノ範圍内ニ於テ發射機長ヲ除キ聯管中ノ各管三名ヲ超ヘザル限り適宜發射機員ヲ増加スルコトヲ得

三、發射機ニ方位盤ヲ裝備スル艦艇ニ在リテハ射手ハ發射機長ヲシテ之ヲ兼ネシムルヲ例トス
發射機ニ方位盤ヲ裝備セザル軍艦ニ在リテハ射手ハ對舷ニ發射機毎ニ一名（艦尾發射機ニ在リテハ獨立ニ一名）ヲ以テ之ニ充ツルヲ例トス必要ニ應ジ幹部員ヲ兼ネシム



昭和四年二月内令第三十二號ニ依リ從來ノ發射操式中戰鬪發射操式ノ部ヲ改定シ別ニ魚雷戰操式草案ヲ發布シ試行ノ上充分審査確定スルコトトセリ

本草案ノ總則トシテ記スル所及目次ヲ摘記セバ左ノ如シ

一、魚雷戰操式草案總則(發布ノ主旨)

- (一) 本操式ハ魚雷戰指揮系統ニ屬スル諸機關ノ權限及指揮法竝ニ之ガ操作ニ關シ一般ニ則ルベキ方式ヲ規定ス
- (二) 軍紀嚴肅指揮適切ニシテ操作精練ナルハ魚雷戰ノ効果ヲ發揚スル所以ナリ乃チ本操式ニ定ムル所ノ方式ハ之ヲ嚴守シ之ニ習熟シ以テ戰鬪諸般ノ狀況ニ應ジ其ノ活用適切ナルヲ本旨トス
- (三) 本操式ハ發射機操式測的操式ト相俟ツテ其ノ効用ヲ全フス

二、内容目次

總則(前掲)

第一章 魚雷戰指揮系統及編制

第二章 單艇魚雷戰操式

通則、一般操式、發射幹部操式

第三章 編隊魚雷戰操式

通則、驅逐隊魚雷戰、戰隊魚雷戰

第四章 敬 練

次デ同年内令第四十三號ニ依リ發射機操式草案ヲ定メ試行セシム即チ現發射操式中基本發射操式ノ部ヲ左ノ通改メ發射機操式草案トナセルモノナリ

- (一) 號令詞及其ノ發令順序等ヲ魚雷戰換式草案ニ適合スル如ク改ム
- (二) 發射機定員ヲ改正シ之ニ應ズル如ク操法ヲ規定スルノ外概ネ現行ノモノヲ襲用ス

本操式草案ニ依ル魚雷戰指揮系統及編制等ヲ摘記セバ左ノ如シ

一、魚雷戰指揮系統

單艦(軍艦) 艦長↓發射指揮官、發射幹部員↓水雷砲臺長↓水雷砲臺
 驅逐隊 司令↓驅逐艦長↓發射指揮官、發射幹部員↓水雷砲臺
 戰隊 司令官、幕僚↓艦長↓發射指揮官、發射幹部員↓水雷砲臺長↓水雷砲臺
 本表以外ノ艦艇(隊)ニ於ケル指揮系統ハ本表ニ準ズ

二、發射幹部員ノ編制(所掌事項)概要

(一) 軍艦

發射指揮所員				戰團配置	員數	所掌業務
傳令員	方位盤員	指揮要員(方位盤員ヲ除ク)	射手			
二	二	二	二	一	發射指揮	發射指揮官傳令
				一	同右補助	發射指揮官傳令
						照準發射、方位盤操作
						指揮要員(方位盤ヲ除ク)操作、射手助手
						方位盤調定射手助手



(㉓) 軍艦驅逐艦以外ノ艦艇ニ於ケル編制ハ前諸號ニ準ズ

砲 臺 傳 令 員	員所令發射發			員所揮指射發			戰 闘 配 置	員 數	所 掌 事 項
	傳 令 員	通 報 器 員	補 助 員	傳 令 員	方 位 盤 員	射 手			
二—三	一	一	一	一	二	二	一	發射機側傳令、通信機關操作	
	傳 令 員	通信機關操作	發射發令所員指揮監督	發射指揮官傳令	方位盤調定、射手補助	照準發射、方位盤操作	發射指揮		

(㉔) 驅逐艦

砲 臺 傳 令 員	員所令發射發			戰 闘 配 置	員 數	所 掌 事 項
	傳 令 員	通 報 器 具	發射發令所長			
三—六	二	二	一	一	三—六	發射指揮通信機關指揮監督
	傳 令 員	通信機關操作	發射發令所長	發射指揮		

即チ大正九年三月從來ノ發射機操式及魚雷發射操式ヲ合一シ魚雷發射操式草案トシテ試行セシ以來九
ケ年ニシテ再ビ魚雷戰操式草案、發射機操式草案ニ分割ラセラルモノナリ

(註) 但シ魚雷發射操式草案ハ大正十二年魚雷發射操式ニ改定セラレタルハ既記ノ如シ

